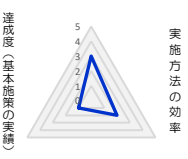


4文化芸術、スポーツの振興を図るまち

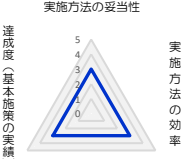
総合基本計画関連ページ		
第5章施策の体系		
4 文化芸術、スポーツの振興を図るまち		210ページ
附属資料		
1 基本計画（第5章）施策の体系 政策指標における現状値		283ページ
基本施策4-① 文化芸術活動の促進		
26市民文化祭の参加者を増やします		
市民文化祭見学者数 12,625人（令和元年度時点）		
【評価対象事業】		
64市民文化祭事業		市民会館・公民館
29文化・芸術の鑑賞の機会を増やします		
市内公募展見学者数 6,641人（令和2年度時点）		
武藤順九彫刻園見学者数 12,433人（令和2年9月）		
【評価対象事業】		
65文化振興事業		企画政策課
30文化・芸術の活動をする人を増やします		
市民文化祭出展者数 574名（令和元年度時点）		
【評価対象事業】		
64市民文化祭事業		市民会館・公民館
市内公募展応募人数 46名（令和2年度時点）		
【評価対象事業】		
65文化振興事業		企画政策課
基本施策4-② 文化財の保護・調査・活用		
31あきしま郷土芸能まつり参加者数を増やします		
あきしま郷土芸能まつり来場者数 49,000人（令和元年度時点）		
【評価対象事業】		
66観光産業振興推進事業（112再掲）		産業活性課
郷土資料室・郷土資料展示室入室者数 47,028人（令和2年時点）		
【評価対象事業】		
67文化財保護事業		アキシマエンス管理課
基本施策4-③ スポーツ・レクリエーションの振興		
33週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします		
週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合 44.2%（令和2年時点）		
【評価対象事業】		
68スポーツ推進委員事務		スポーツ振興課
69スポーツ団体補助事業		スポーツ振興課
70スポーツ・レクリエーションイベント事業		スポーツ振興課
71総合スポーツセンター管理運営事務		スポーツ振興課
72みほり体育館管理運営事務		スポーツ振興課
73運動施設管理運営事務		スポーツ振興課
34スポーツ・レクリエーションを通して、高齢者の外出機会を増やし、健康増進を図ります		
イキイキ・ニコニコ介護予防教室 開催 47回・参加者数 677人（令和2年時点）		
【評価対象事業】		
74高齢者各種教室事業		介護福祉課

基本施策4-④ 図書館活動の充実		
35	市民一人当たりの図書貸出冊数を増やします	
	市民一人当たりの図書貸出冊数 5.6冊（令和2年時点）	
	市民図書館の登録者数 32,868人（28.9％）（令和2年度末時点）	
	【評価対象事業】	
	75市民図書館管理運営事務	アキシマエンス管理課
基本施策4-⑤ 生涯を通じた学習活動の推進		
37	アキシマエンス入館者を増やします	
	アキシマエンス入館者数 289,004人（令和2年度時点）	
	【評価対象事業】	
	76アキシマエンス管理運営事務	アキシマエンス管理課
38	生涯学習講座など活動の充実を図り、参加者の学習意欲を広げます	
	生涯学習講座などの参加者数 社会教育課主催事業 330人（令和元年度時点）	
	【評価対象事業】	
	77生涯学習事業	社会教育課
	市民会館・公民館主催事業 1,936人（令和元年度時点）	
	【評価対象事業】	
	78学級・講座等事業	市民会館・公民館

令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		市民文化祭事業										事業開廃年度		- 継続	
基本データ	予算科目	款	10	項	04	目	07	細目	005	細々目	01	部	生涯学習部	課長	平沢 智子
		款名	教育費									課	市民会館・公民館	担当	森山 陽子
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-① 文化芸術活動の促進 市民文化祭の参加者を増やします										係	事業	電話	544-1407
	根拠法令等	文化芸術基本法,社会教育法,市文化芸術振興条例,文化芸術の振興に関する基本方針,市民文化祭開催要項										法令による事業実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☐ 都補助等あり)	
	SDG's17の目標	 4 質の高い教育をみんなに													
事業の概要	事業概要	対象 市民・市民団体					目的 文化芸術振興は、心豊かな活力ある社会形成のために重要な意義がある。市民に日頃の文化・芸術活動の成果を発表できる機会を提供し、生きがいきづくりや市民相互の交流を図る。								
	実施内容	〇9月19日～11月3日（14日間） 〇主催：昭島市・昭島市教育委員会 主管：昭島市民文化祭運営委員会 〇参加：25部門（68団体） 〇演奏・演芸（歌謡、芸能、邦楽、フラダンス、合唱、音楽、バンド&ダンス、器楽、朗読、人形劇、落語） 〇展示（手工芸、平和、陶芸、華道、俳句、山野草、盆栽、短歌、科学、美術、写真） 〇対局・その他（将棋、囲碁、茶会）													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算		R7当初予算		R7決算		R8当初予算		備考＜特財名称等＞			
	直接事業費		千円	2,773		2,917		2,750		2,546					
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円												
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円												
		一般財源	千円	2,773		2,917		2,750		2,546					
	一般職員人件費		千円	10,207		10,400		10,400		10,867					
	人工数		人	1.20		1.20		1.20		1.20					
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	12,980		13,317		13,150		13,413					
	基本施策の現状値										(時点)				R5実績
市民文化祭見学者数 12,625人										令和元年度		10,695人	11,124人	9,749人	
文化・芸術の活動をする人を増やします 市民文化祭出展者数 574名										令和元年度		576人	494人	328人	
事業の評価	実施方法の妥当性		3	市及び教育委員会の主催であるが、運営は、参加団体から選出された市民で構成する文化祭運営委員会で行っている。運営委員は各部門の代表者で構成しており、実施方法は妥当であると考ええる。											
	実施方法の効率性		2	事業計画の提出を受け、補助金額を決定し交付している。事業終了後に提出される実績報告書を審査し補助金額を確定、余剰金が発生した場合は返還することとしている。											
	達成度（基本施策の実績）		1	市民文化祭の見学者数、出展者数については昨年度より減少した。改修工事のため公民館が10月から休館、また市民会館は一部利用制限がある中での開催で、時期をずらしたり、楽屋を使わずに実施したり団体はそれぞれ工夫しながら開催したが、少なからず工事による休館の影響はあったと思われる。											
	DXへの取組		予定なし					AI・RPA導入の可能性		該当事務なし					
	個別評価	合計点 6	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
			総合評価	市民の日頃の団体活動の発表や、市民相互の交流など文化振興に大きな役割を果たす市民文化祭は、各部門の代表者で構成する運営委員会と連携を図りながら実施している。参加団体構成員の高齢化や、会場となる市民会館・公民館の休館期間とも重なり、時期をずらして開催するなど内容も工夫して開催したが、その影響は大きかった。来年度も休館中の開催となるため、引き続き市民文化祭運営委員会と連携を図り、会場となるアキシマエンスでの開催方法等を検討しながら進めていく。											

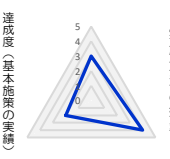
令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		文化振興事業								事業開廃年度		継続			
基本データ	予算科目	款	02	項	01	目	01	細目	019	細々目	01	部	企画部	課長	村山 純
		款名	総務費								課	企画政策課	担当	髙橋 雄喜	
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-① 文化芸術活動の促進 市民文化祭の参加者を増やします								係	企画調整担当	電話	内線 2373		
	根拠法令等	文化芸術基本法								法令による事業実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☐ 都補助等あり)			
	SDG's17の目標	 4 質の高い教育をみんなに													
事業の概要	事業概要	対象				目的									
		市民				文化芸術の主役である、市民のみなさまの活動がさらに発展するよう、そして、子どもから高齢者、障害者など市民の誰もが文化芸術を身近で味わい、心豊かで潤いのある暮らしを実感できるよう務める。									
	実施内容	文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携を図り、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用するなど、文化芸術施策を総合的かつ計画的に推進する。													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算		R7当初予算		R7決算		R8当初予算		備考＜特財名称等＞			
	直接事業費		千円	3,374		3,630		3,084		3,353					
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円												
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円												
		一般財源	千円	3,374		3,630		3,084		3,353					
	一般職員人件費		千円	851		867		867		906					
	人工数		人	0.10		0.10		0.10		0.10					
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	4,225		4,497		3,951		4,259					
	基本施策の現状値										(時点)				R5実績
市内公募展見学者数 6,641人										令和2年度	6,382人	6,345人	未開催		
武藤順九彫刻園見学者数 12,433人										令和2年9月	13,682人	12,797人	5,776人		
文化・芸術の活動をする人を増やします 市内公募展応募人数 46名										令和2年度	60人	48人	未開催		
事業の評価	実施方法の妥当性		3	令和7年9月末に昭和の森芸術文化振興会が休会となったため、市内公募展は開催しなかった。武藤順九彫刻園もフォレストイン昭和館の閉館の影響を受け、来場者数減となった。彫刻園の開園については、今後もより一層広く伝える必要がある。											
	実施方法の効率性		3	市内公募展の見学者数及び市内公募展応募人数の2項目について、市内公募展が未開催となったことから前年比での評価はできないこと、また武藤順九彫刻園についてもフォレストイン昭和館の解体工事が始まり、周囲環境が大きく変わり前年比での評価は難しく、今回の評価とした。											
	達成度（基本施策の実績）		3	市内公募展の見学者数及び市内公募展応募人数の2項目について、市内公募展が未開催となったことから現状値との評価はできないこと、また武藤順九彫刻園についてもフォレストイン昭和館の解体工事が始まり、周囲環境が大きく変わり現状値との評価は難しく、今回の評価とした。											
	DXへの取組		予定なし					AI・RPA導入の可能性		該当事務なし					
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → D 縮小・廃止											
			総合評価	市内公募展の見学者数及び市内公募展応募人数の2項目について、市内公募展が未開催となったことから前年比での評価はできないこと、また武藤順九彫刻園についてもフォレストイン昭和館の解体工事が始まり、周囲環境が大きく変わり前年比での評価は難しく、今回の評価とした。 今後は基本施策の設定についても検討する必要がある。											

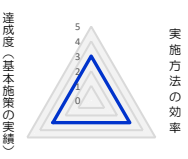
令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		観光産業振興推進事業								事業開廃年度		平成22年度			
												継続			
基本データ	予算科目	款	07	項	01	目	02	細目	008	細々目	01	部	市民部	課長	森田 晃
		款名	商工費								課	産業活性課	担当	加茂 信行	
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-② 文化財の保護・調査・活用 あきしま郷土芸能まつり参加者数を増やします								個別計画		昭島市産業振興計画（平成29年度～令和8年度）			
	根拠法令等	一般社団法人昭島観光まちづくり協会補助金交付要綱 あきしま「郷土芸能まつり」事業補助金交付要綱								法令による事業実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☐ 都補助等あり)			
	SDG's17の目標	 11 住み続けられるまちづくりを													
事業の概要	事業概要	対象						目的							
	実施内容	*観光まちづくり協会：観光まちづくり協会の運営（観光案内所の運営を含む。）に要する経費を補助。観光案内所イベント、フォトコンテスト（応募数337点）、町あるき（全12回）、昭島ロケーションサービス事業（撮影実績144回）、観光案内所運営（来所数15,832人） *郷土芸能まつり：あきしま郷土芸能まつりの開催に要する経費を実行委員会（事務局：観光まちづくり協会）に補助。													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算		R7当初予算		R7決算		R8当初予算		備考＜特財名称等＞			
	直接事業費		千円	28,460		31,600		31,214		34,030					
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円												
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円												
		一般財源	千円	28,460		31,600		31,214		34,030					
	一般職員人件費		千円	851		1,733		1,733		3,622					
	人工数		人	0.10		0.20		0.20		0.40					
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	29,311		33,333		32,947		37,652					
	基本施策の現状値										(時点)	R5実績	R6実績	R7実績	
あきしま郷土芸能まつり来場者数 49,000人										令和元年度	規模を縮小しての屋外開催	48,000	33,000		
事業の評価	実施方法の妥当性		3	平成22年度に設立された観光まちづくり協会は、昭島の観光事業や市の魅力をPRするためには必要不可欠であり、協会の公益事業の運営に要する経費のうち、管理運営費について補助金を交付している。また、あきしま郷土芸能まつりを円滑に開催するためには事業費の補助が必要である。											
	実施方法の効率性		3	両補助金とも、事業実施前に事業計画の提出を受け補助金額を決定し、補助金を交付。事業終了後、実績報告書が提出されている。内容の審査を行い、補助金額を確定し、余剰金が発生している場合は返還している。											
	達成度（基本施策の実績）		4	市内各地の神社や祭礼を紹介するリーフレットの配布や伝統芸能に気軽に触れて楽しめる体験・ふれあいイベントのほか、昨年好評だった「おまつりシールラリー」を継続し多くの皆様に参加いただいたことで、まつりの基本理念である次世代への継承に寄与できた。両補助金の交付により、市内外からの集客及び昭島の魅力の発信、市民の郷土への愛着心と地域のふれあいが高まった。											
	DXへの取組		予定なし					AI・RPA導入の可能性		該当事務なし					
	個別評価	合計点 10	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
達成度（基本施策の実績） 		総合評価	あきしま郷土芸能まつりについて、昨年の前夜祭が無くなり日曜日のみの開催となった、進行スケジュールを工夫しながら出演団体とふれあう機会を増やし、「見て・聞いて・触れて・楽しむ」1日となり33,000人の来場者となった。また、観光案内所の来所者数は昨年度の16,294人から15,832人と多少減少したが引続き好調である。令和8年度以降も、あきしま郷土芸能まつりを含めた観光事業全般について、引き続き市の魅力発信を行っていく。												

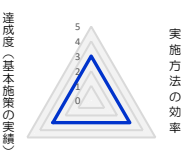
令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		文化財保護事業										事業開廃年度		継続	
基本データ	予算科目	款	10	項	04	目	03	細目	002	細々目	01	部	生涯学習部	課長	勝野 玄隆
		款名	教育費									課	アキシマエンス管理課	担当	鈴木 賢治
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-② 文化財の保護・調査・活用 郷土資料室の見学者を増やします										係	文化財係	電話	042-519-5717
	根拠法令等	文化財保護法・昭島市文化財保護条例										法令による事業実施義務		☒ 義務(☐ 市上乗せあり) ☐ 任意(☐ 都補助等あり)	
	SDG's17の目標	 4 質の高い教育をみんなに													
事業の概要	事業概要	対象					目的								
	実施内容	市民、文化財の所有者、管理者及び保存団体（保持者）等 文化財の保護・保存・継承をするとともに、広く文化財を公開することによって、文化財保護思想の高揚・普及・啓発を行い、郷土資料室の見学者増を図る。 ・文化財めぐりや文化財講演会等、文化財への理解促進及び次世代への継承に繋がる事業を実施。 ・指定文化財及び登録文化財の保護及び保存のため事業、後継者育成に係る補助を推進。 ・郷土資料室において、常設展示の充実及び文化財の理解が深まるICTを活用したコンテンツを提供。化石発見65周年を迎えたアキシマクシラを取り上げた全身骨格化石の展示等、分野ごとに特化した4つのテーマで企画展を開催。													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算		R7当初予算		R7決算		R8当初予算		備考＜特財名称等＞			
	直接事業費		千円	1,974		1,973		1,544		2,498		【その他特定財源】 ・各種印刷物頒布代金 ・地域伝統芸能等保存事業助成金			
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円												
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	331		395		364		395					
		一般財源	千円	1,643		1,578		1,180		2,103					
	一般職員人件費		千円	5,104		5,200		5,200		5,434					
	人工数		人	0.60		0.60		0.60		0.60					
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	7,078		7,173		6,744		7,932					
	基本施策の現状値										(時点)		R5実績	R6実績	R7実績
郷土資料室・郷土資料展示室入室者数										47,028人	令和2年度	40,103人	44,150人	45,262人	
事業の評価	実施方法の妥当性		3	文化財保護思想の高揚・普及・啓発につながるよう、郷土資料室企画展についてテーマや内容に工夫を凝らし継続し開催することで、市民の興味を引き続けることができ、前年度より見学者を増やすことができた。											
	実施方法の効率性		4	企画展・企画事業の充実に努めることで、文化財に身近に親しむことのできる機会を提供することができた。											
	達成度（基本施策の実績）		2	郷土資料室・郷土資料展示室入室者数について、前年度（令和6年度）比は2.5％の増であるが、令和2年度比では3.8％減。											
	DXへの取組		予定なし					AI・RPA導入の可能性		該当事務なし					
	個別評価	合計点	9		今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持									
			総合評価		文化財保護事業においては、指定文化財に対する補助を通じて保護・保存するとともに各種事業、郷土資料室企画展の実施等で広く文化財保護思想の普及に努め、市民共有の財産として次世代に確実に継承することが重要である。文化財の保護・調査・活用をより活性化していくため、引き続き適切な取組を実施する。										

令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		スポーツ推進委員事務										事業開廃年度		継続	
基本データ	予算科目	款	10	項	05	目	01	細目	003	細々目	01	部	生涯学習部	課長	川鍋 祐美子
		款名	教育費									課	スポーツ振興課	担当	細谷 隆宏
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします										係	スポーツ振興係	電話	2247
	根拠法令等	スポーツ基本法 スポーツ推進委員に関する規則										個別計画		スポーツ推進計画 令和4年度～令和8年度	
	SDG's17の目標	3 すべての人に健康と福祉を										法令による事業 実施義務		☒ 義務(☐ 市上乗せあり) ☐ 任意(☐ 都補助等あり)	
事業の概要	事業概要	対象					目的								
	実施内容	スポーツ推進委員事務											スポーツ推進委員活動を円滑に進める。		
事業の実績					スポーツ推進委員事務の報酬、旅費、貸与品、スポーツ安全保険加入等の事務処理及び活動支援										
	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算		R7当初予算		R7決算		R8当初予算		備考＜特財名称等＞			
	直接事業費		千円	2,501		2,757		2,240		3,257					
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円												
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円												
		一般財源	千円	2,501		2,757		2,240		3,257					
	一般職員人件費		千円	4,253		4,334		4,334		4,528					
	人工数		人	0.50		0.50		0.50		0.50					
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	6,754		7,091		6,574		7,785					
基本施策の現状値		(時点)								R5実績		R6実績		R7実績	
週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合		44.2%		令和元年度		45.0%		調査未実施		53.0%					
事業の評価	実施方法の妥当性		3		各種イベント運営の協力や自主事業等を実施していることから、妥当であると考えられる。										
	実施方法の効率性		3		対面での定例会を実施しているが、出張等も重なった委員からオンラインでの参加の打診がありオンラインでの参加も行ったが、全員でのオンライン会議の開催は困難であると考えられる。										
	達成度（基本施策の実績）		3		令和7年度実施の市民意識調査結果より										
	DXへの取組		検討中					AI・RPA導入の可能性		該当事務なし					
	個別評価	合計点	9		今後の方向性		(前年度 現状を維持) → E 現状を維持								
達成度（基本施策の実績）				総合評価		昨年度に引き続き、各種イベントを開催しており、参加人数も徐々に増加している。また、他市との交流や研修会についても積極的に提案、実施していることから、交通費の増額が必要となっている。									

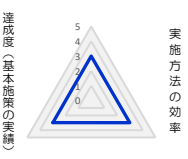
令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		スポーツ団体補助事業										事業開廃年度		継続			
基本データ	予算科目	款	10	項	05	目	01	細目	008	細々目	01	部	生涯学習部	課長	川鍋 祐美子		
		款名	教育費										課	スポーツ振興課	担当	細谷 隆宏	
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします										係	スポーツ振興係	電話	2247		
	根拠法令等	スポーツ基本法 昭島市スポーツ団体補助金交付要綱										法令による事業実施義務		□ 義務(□ 市上乗せあり) ☑ 任意(□ 都補助等あり)			
	SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を															
事業の概要	事業概要	対象 市民スポーツ団体					目的 市民の自主的なスポーツ活動を補助し、地域スポーツの発展を図る。										
	実施内容	次の団体に補助金を交付した。 スポーツ協会（2,480,000円）、リトルリーグ野球協会（100,000円）、少年野球連盟（100,000円）、早朝軟式野球連盟（100,000円）、フットベース協会（50,000円）、昭島くじらスポーツクラブ（200,000円）															
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算		R7当初予算		R7決算		R8当初予算		備考＜特財名称等＞					
	直接事業費		千円	2,980		3,030		3,030		3,365							
	財源内訳	国庫支出金	千円														
		都支出金	千円														
		地方債	千円														
		その他特定財源	千円														
		一般財源	千円	2,980		3,030		3,030		3,365							
	一般職員人件費		千円	851		867		867		906							
	人工数		人	0.10		0.10		0.10		0.10							
	再任用職員人件費		千円														
	人工数		人														
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円														
	人工数		人														
	総事業費		千円	3,831		3,897		3,897		4,271							
	基本施策の現状値										(時点)				R5実績	R6実績	R7実績
週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合 44.2%										令和元年度					45.0%	調査未実施	53.0%
事業の評価	実施方法の妥当性		3	昭島市スポーツ団体補助金交付要綱に基づき、補助金を支出した。													
	実施方法の効率性		3	市のスポーツ団体の発展を図るための補助事業であり、各団体において毎年総会を開催し、予算・決算及び事業計画を報告させることで効率的な運営に努めている。													
	達成度（基本施策の実績）		3	各団体の活動が、市民のスポーツ活動普及に繋がっていると考えられる。													
	DXへの取組		検討中					AI・RPA導入の可能性		該当事務なし							
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持													
			総合評価	自主財源の確保や効率的な組織運営等についての指導等も実施しつつも、市からの補助を継続し、現在の活動を維持していく。													

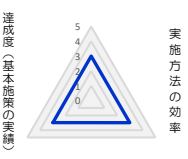
令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		スポーツ・レクリエーションイベント事業								事業開廃年度		継続			
基本データ	予算科目	款	10	項	05	目	01	細目	011	細々目	01	部	生涯学習部	課長	川鍋 祐美子
		款名	教育費								課	スポーツ振興課	担当	細谷 隆宏	
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします								係	スポーツ振興係	電話	2247		
	根拠法令等	スポーツ基本法								法令による事業実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☐ 都補助等あり)			
	SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を													
事業の概要	事業概要	対象				目的									
	実施内容	市民 老若男女・障害のあるなしに関わらず誰でも参加ができるイベント等を実施し、市民のスポーツ実施率の向上を図る。 ①親子ふれあいスポーツデー（3回、250人）、②スポーツ・レクリエーションフェスティバル（2,243人） ③ポッチャ昭島カップ（62人）、④ポッチャ体験会（7回、174人）、⑤モルック体験会（3回、69人）													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算	R7当初予算	R7決算	R8当初予算	備考＜特財名称等＞							
	直接事業費		千円	339	433	382	618								
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円												
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円												
		一般財源	千円	339	433	382	618								
	一般職員人件費		千円	1,701	1,733	1,733	1,811								
	人工数		人	0.20	0.20	0.20	0.20								
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	2,040	2,166	2,115	2,429								
	基本施策の現状値													(時点)	R5実績
週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合 44.2%							令和元年度	45.0%	調査未実施	53.0%					
事業の評価	実施方法の妥当性		3	個別のイベントを同一科目で実施したことにより消耗品等の支出削減に繋がっていると考えられる。											
	実施方法の効率性		3	個別のイベントを同一科目で実施したことにより効率性があがったと考えられる。											
	達成度（基本施策の実績）		3	令和7年度実施の市民意識調査結果より											
	DXへの取組		予定なし				AI・RPA導入の可能性		該当事務なし						
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
			総合評価	個別のイベントを同一科目で実施することにより業務の効率化を図ることに繋がったと考えられる。											

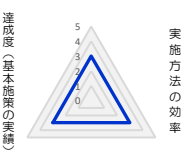
令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		総合スポーツセンター管理運営事務								事業開廃年度		継続			
基本データ	予算科目	款	10	項	05	目	02	細目	001	細々目	01	部	生涯学習部	課長	川鍋 祐美子
		款名	教育費								課	スポーツ振興課	担当	細谷 隆宏	
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします								係	スポーツ振興係	電話	2247		
	根拠法令等	スポーツ基本法 昭島市総合スポーツセンター条例								法令による事業実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☐ 都補助等あり)			
	SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を													
事業の概要	事業概要	対象 市民・団体等				目的 総合スポーツセンターにおいてスポーツ及びレクリエーションの普及・振興を図り、市民の心身の健全な発達に寄与する。									
	実施内容	施設の管理運営及び各種スポーツ教室を民間委託により実施することで効率的な運営を図るとともに、スポーツ及びレクリエーションの普及・振興を推進する。 【団体利用】（5,625件、78,202人）【個人利用】79,321人、【駐車場利用台数】57,802台													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算	R7当初予算	R7決算	R8当初予算	備考＜特財名称等＞							
	直接事業費		千円	232,382	609,747	504,360	296,186	【その他特定財源】 ・行政財産使用料 ・総合スポーツセンター使用料 ・庁舎等光熱水費 ・複写機利用料 ・各種講習会等負担金 ・電話料 ・スポーツ実施促進事業補助金							
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円	13,500	106,552	251,006	41,000								
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	53,154	342,636	43,336	71,796								
		一般財源	千円	165,728	160,559	210,018	183,390								
	一般職員人件費		千円	1,701	1,733	1,733	1,811								
	人工数		人	0.20	0.20	0.20	0.20								
	再任用職員人件費		千円	3,346	3,962	3,962	4,325								
	人工数		人	0.70	0.70	0.70	0.70								
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	234,083	611,480	506,093	297,997								
	基本施策の現状値								(時点)	R5実績	R6実績	R7実績			
週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合 44.2%								令和元年度	45.0%	調査未実施	53.0%				
事業の評価	実施方法の妥当性		3	運営方法について指定管理者制度の導入も検討されているが、施設老朽化が進んでおり、現状のままとなっている。											
	実施方法の効率性		3	大規模改修工事を実施したため、支出額が増加しているが、東京都からの補助金等を活用し支出額を抑えることができたが、修繕ヶ所が増加傾向にあり修繕費の割合が増えている。											
	達成度（基本施策の実績）		3	令和7年度実施の市民意識調査結果より											
	DXへの取組		検討中			AI・RPA導入の可能性		該当事務なし							
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
			総合評価	施設の老朽化が進行しており、予算要求時では想定していない修繕なども発生していることから延命措置だけではなく建替えについても検討が必要と考えられる。 また建替えにあたっては、PFI等の導入等財源確保についても併せて検討する必要があると考えられる。											

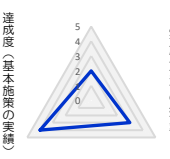
令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		みほり体育館管理運営事務										事業開廃年度		継続	
基本データ	予算科目	款	10	項	05	目	02	細目	002	細々目	01	部	生涯学習部	課長	川鍋 祐美子
		款名	教育費									課	スポーツ振興課	担当	細谷 隆宏
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします										係	スポーツ振興係	電話	2247
	根拠法令等	スポーツ基本法 昭島市みほり体育館条例										法令による事業実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☐ 任意(☐ 都補助等あり)	
	SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を													
事業の概要	事業概要	対象		目的											
		市民・団体等		みほり体育館においてスポーツ及びレクリエーションの普及・振興を図り、市民の心身の健全な発達に寄与する。											
	実施内容	≪体育館≫ 【団体利用】(1,108件、12,092人) 【個人利用】2,099人 ≪研修室≫ 371件、1,802人													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算	R7当初予算	R7決算	R8当初予算	備考＜特財名称等＞							
	直接事業費		千円	19,045	12,765	10,768	13,558	【その他特定財源】 ・みほり体育館使用料 ・庁舎等光熱水費 ・雇用保険料							
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円	11,119	126	108									
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	1,443	2,785	2,245	2,920								
		一般財源	千円	6,483	9,854	8,415	10,638								
	一般職員人件費		千円	2,552	2,600	2,600	2,717								
	人工数		人	0.30	0.30	0.30	0.30								
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	21,597	15,365	13,368	16,275								
	基本施策の現状値							(時点)	R5実績	R6実績	R7実績				
週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合 44.2%							令和元年度	45.0%	調査未実施	53.0%					
事業の評価	実施方法の妥当性		3	運営方法の見直しとして指定管理者制度の導入も検討したが、他の運動施設との兼ね合いから現在の方法とした。											
	実施方法の効率性		3	大規模工事を実施しないため、事業費は減少している。											
	達成度（基本施策の実績）		3	令和7年度実施の市民意識調査結果より											
	DXへの取組		予定なし			AI・RPA導入の可能性		該当事務なし							
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
			総合評価		運営方法については、直営にて実施しているが、総合スポーツセンター等と併せて指定管理者制度等の導入も検討する必要があると考えられる。										

令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		運動施設管理運営事務										事業開廃年度		継続		
基本データ	予算科目	款	10	項	05	目	03	細目	001	細々目	01	部	生涯学習部	課長	川鍋 祐美子	
		款名	教育費										課	スポーツ振興課	担当	細谷 隆宏
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします										係	スポーツ振興係	電話	2247	
	根拠法令等	スポーツ基本法 昭島市都市公園条例										法令による事業実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☐ 都補助等あり)		
	SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を														
事業の概要	事業概要	対象					目的									
		市民・団体等					市内屋外運動施設においてスポーツ及びレクリエーションの普及・振興を図り、市民の心身の健全な発達に寄与する。									
	実施内容	市内の屋外運動を良好な状態に保つため、維持管理作業を民間に委託して実施している。 《利用実績》 昭和公園【市民球場（214件、763回、34,833人）、陸上競技場（453回、48,057人）、テニスコート（4,415回、28,491人）】大神公園（1,694回、64,156人）、くじら運動公園（6,500回、156,595人）、美ノ宮公園（338回、4,475人）														
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算		R7当初予算		R7決算		R8当初予算		備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	80,812		65,979		59,666		96,484		【その他特定財源】 ・昭和公園運動施設等使用料 ・庁舎等光熱水費 ・施設命名権料 ・企業版ふるさと納税基金				
	財源内訳	国庫支出金	千円													
		都支出金	千円	10,500		1,230		615		10,000						
		地方債	千円													
		その他特定財源	千円	35,392		28,143		26,062		39,102						
		一般財源	千円	34,920		36,606		32,989		47,382						
	一般職員人件費		千円	4,253		4,334		4,334		4,528						
	人工数		人	0.50		0.50		0.50		0.50						
	再任用職員人件費		千円													
	人工数		人													
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円													
	人工数		人													
	総事業費		千円	85,065		70,313		64,000		101,012						
	基本施策の現状値										(時点)		R5実績	R6実績	R7実績	
週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合										44.2%		令和元年度	45.0%	調査未実施	53.0%	
事業の評価	実施方法の妥当性		3	運営方法の見直しとして指定管理者制度の導入も検討したが、他の運動施設との兼ね合いから現在の方法とした。												
	実施方法の効率性		3	委託により実施していることで職員の負担軽減に繋がり、効率性が上がっていると考えられる。												
	達成度（基本施策の実績）		3	令和7年度実施の市民意識調査結果より												
	DXへの取組		予定なし					AI・RPA導入の可能性		該当事務なし						
	個別評価	合計点	9		今後の方向性		(前年度 コスト改善に向けて実施方法を見直し) → B コスト改善に向けて実施方法を見直し									
		総合評価		市民球場は開設から15年を経過し、外壁及び付帯設備について大規模修繕が必要となっている施設である。 また、テニスコート等の他の施設についても経年劣化による修繕も実施する必要がある。指定管理者制度の導入や料金改定等も検討しなければならないと考えられる。												

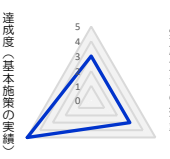
令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		高齢者各種教室事業								事業開廃年度		平成24年度			
												継続			
基本データ	予算科目	款	03	項	01	目	04	細目	014	細々目	01	部	保健福祉部	課長	森田 慶人
		款名	民生費								課	介護福祉課	担当	細井 孝洋	
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-③ スポーツ・レクリエーションの振興 週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合を増やします								係	高齢者支援係	電話	2159		
	根拠法令等	老人福祉法第13条、昭島市高齢者イキイキ・ニコニコ介護予防事業実施要綱								法令による事業実施義務		☒ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☐ 都補助等あり)			
	SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を													
事業の概要	事業概要	対象				目的									
	実施内容	65歳以上で介護保険における要介護及び要支援の認定を受けていない市民 介護予防や健康増進を図るための各種教室の実施により、介護予防に寄与し、仲間づくりや高齢者の活動の場を提供することで、活力ある地域社会づくりの構築に努める。 ○イキイキ・ニコニコ介護予防教室として、軽体操・ウォーキング・書道教室・フラダンス・健康スポーツ吹き矢・インターネット教室・陶芸・着付け・脳のトレーニング・英会話・カラオケ教室・健康気功・太極拳・スマホ教室・合唱・手でわかる健康実践・口腔ケア・絵手紙の各講座を12回（3か月）を1クールとして、3クール開催 ○元気歯つらつ健口講座として、半日の体験コースを1回、口腔ケアの重要性を学ぶ講座を6回（週1回を目安に約2か月）を1クールとして、2クール開催													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算		R7当初予算		R7決算		R8当初予算		備考＜特財名称等＞			
	直接事業費		千円	8,953		9,057		8,973		9,484		【都支出金】 ・人生100年時代セカンドライフ応援事業補助金 【その他特定財源】 ・福祉サービス事業利用者負担金			
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円	5,348		5,294		5,348		5,537					
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	929		1,116		950		1,176					
		一般財源	千円	2,676		2,647		2,675		2,771					
	一般職員人件費		千円	2,552		2,600		2,600		2,717					
	人工数		人	0.30		0.30		0.30		0.30					
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	11,505		11,657		11,573		12,201					
	基本施策の現状値												(時点)	R5実績	R6実績
イキイキ・ニコニコ介護予防教室 開催 47回												令和2年度	68回	67回	66回
参加者数 677人												令和2年度	1,083人	1,019人	1,095人
事業の評価	実施方法の妥当性		2	高齢者の就労の機会を多く提供することも事業目的のひとつとしているため、当該講座はシルバー人材センターやNPO法人ひだまりに委託していることより他の方法を検討せず、前年度の方法を踏襲した。											
	実施方法の効率性		3	コスト面ではほぼ横ばいであった。成果について、イキイキ・ニコニコ介護予防教室と元気歯つらつ健口講座ともに参加者数が微増したものの、一昨年前の水準に戻ったと判断し、効率性は3とする。											
	達成度（基本施策の実績）		4	基本施策の現状値（R2）から増減10%以上を達成しているが、R2はコロナ禍であったため規模を縮小して実施していることから評価は4としたい。											
	DXへの取組		予定なし					AI・RPA導入の可能性		該当事務なし					
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
		総合評価	イキイキ・ニコニコ介護予防教室はほぼすべての講座で応募者が定員を上回っており、本事業に対する市民のニーズは高いものと思われる。また、元気歯つらつ健口講座も参加者数が増加傾向にあり、オーラルフレイルに対する市民の関心も高くなっていると考えられる。今後も、市民のニーズを反映させた事業の運営を、委託先の各法人と協議し、本事業を継続していく。												

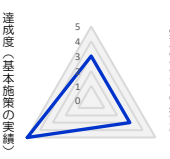
令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		市民図書館管理運営事務										事業開廃年度		昭和48年度						
														継続						
基本データ	予算科目	款	10	項	04	目	05	細目	003	細々目	01	部	生涯学習部	課長	勝野 玄隆					
		款名	教育費										課	アキシマエンス管理課	担当	渡辺 まさみ				
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-④ 図書館活動の充実 市民一人当たりの図書貸出冊数を増やします										係	管理係	電話	519-2211					
	根拠法令等	図書館法、公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準、昭島市民図書館条例、昭島市民図書館運営規則、昭島市教育福祉総合センター条例										個別計画		昭島市民図書館基本方針・基本計画、昭島市子ども読書活動推進計画（R4年度～R8年度）						
	SDG's17の目標	4 質の高い教育をみんなに										法令による事業実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☐ 都補助等あり)						
事業の概要	事業概要	対象					目的													
	実施内容	市民											「学び、習い、楽しみ、育む知の拠点～本と情報を仲立ちとして人が集い、つながり、新たな価値を創造する場を目指して～」を基本理念とした図書館運営を行う。							
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算		R7当初予算		R7決算		R8当初予算		備考＜特財名称等＞								
	直接事業費		千円	243,299		312,958		312,689		271,652		【その他特定財源】 ・特定防衛施設周辺整備調整交付金事業基金繰入金								
	財源内訳	国庫支出金	千円																	
		都支出金	千円			350		350		350										
		地方債	千円																	
		その他特定財源	千円	31,200		42,000		42,000		44,000										
		一般財源	千円	212,099		270,608		270,339		227,302										
	一般職員人件費		千円	7,655		7,800		7,800		9,056										
		人工数	人	0.90		0.90		0.90		1.00										
	再任用職員人件費		千円																	
		人工数	人																	
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円																	
		人工数	人																	
	総事業費		千円	250,954		320,758		320,489		280,708										
	基本施策の現状値												(時点)	R5実績	R6実績	R7実績				
市民一人当たりの図書貸出冊数 5.6冊												令和2年度	6.5冊	6.2冊	6.1冊					
市民図書館の登録者数を増やします 市民図書館の登録者数 32,868人 (28.9%)												令和2年度末	47,159人	50,800人	54,509人					
事業の評価	実施方法の妥当性		3	指定管理者への評価・モニタリングにおける調査項目や調査方法について、より質の高いサービスに繋げることができている。																
	実施方法の効率性		3	多様化・複雑化している市民のニーズに的確に対応していくため、指定管理者を評価・モニタリングすることで、その能力を有効に活用し、より柔軟で質の高いサービスを提供することができるよう努めた。また、東部分館の開館に伴い、要望が多くあった市東部地域への図書館機能の拡充が実現した。																
	達成度（基本施策の実績）		5	市民一人当たりの図書貸出冊数 5.6冊 → 6.1冊 (8.9%増) 市民図書館の登録者数 32,868人 → 54,509人 (65.8%増)																
	DXへの取組		予定なし					AI・RPA導入の可能性		該当事務なし										
	個別評価	合計点 11	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持																
実施方法の妥当性		市民図書館がアキシマエンスに移転して5年が経過する中で、コロナ禍が明け多彩な図書館事業を実施することができ、登録者数の増加及び図書貸出冊数維持という成果を上げることができた。また、令和7年12月にイーストテラス・サブスリー内に新分館（東部分館）が開館したことに伴い、これまで要望が多くあった市東部地域への図書館機能の拡充が解消された。その他、指定管理者へ評価・モニタリング及び必要に応じて助言等を実施することにより、事業の推進に寄与することができた。																		

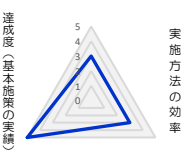
令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		アキシマエンス管理運営事務										事業開廃年度		令和2年度 継続	
基本データ	予算科目	款	10	項	01	目	05	細目	001	細々目	01	部	生涯学習部	課長	勝野 玄隆
		款名	教育費									課	アキシマエンス管理課	担当	渡辺 まさみ
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-⑤ 生涯を通じた学習活動の推進 アキシマエンス入館者を増やします										係	管理係	電話	519-2211
	根拠法令等	社会教育法、児童福祉法、昭島市教育福祉総合センター条例、昭島市教育福祉総合センター条例施行規則										法令による事業実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☐ 都補助等あり)	
	SDG's17の目標	 3 すべての人に健康と福祉を													
事業の概要	事業概要	対象 市民										目的 ・市民と情報、市民と市民をつなぎ、あきしまの今を未来につなぐ場・市民一人一人の世界が広がり、交流の輪が広がる場・市民が自ら課題に向き合い、必要とする知識や情報、人とのつながりを見つける場・あきしまの未来を創る市民を育む場をコンセプトに、施設の管理運営を行う。			
	実施内容	アキシマエンスの管理運営は「昭島市教育福祉総合センター及び昭島市民図書館の管理に関する基本協定書」及び「昭島市教育福祉総合センター及び昭島市民図書館の管理に関する年度協定書」に基づき指定管理者が行う。指定管理業務について、目的達成に繋がる適切な評価・モニタリングを実施する。													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算	R7当初予算	R7決算	R8当初予算	備考＜特財名称等＞							
	直接事業費		千円	318,196	328,065	318,910	334,637	【その他特定財源】 ・行政財産使用料 ・アキシマエンス使用料 ・庁舎等光熱水費 ・多摩・島しょ行政のデジタル化推進事業助成金							
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円												
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円		6,864	6,759	1,118								
		一般財源	千円	318,196	321,201	312,151	333,519								
	一般職員人件費		千円	7,655	7,800	7,800	9,056								
	人工数		人	0.90	0.90	0.90	1.00								
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	325,851	335,865	326,710	343,693								
	基本施策の現状値							(時点)	R5実績	R6実績	R7実績				
アキシマエンス入館者数 289,004人							令和2年度	401,825人	410,186人	432,742人					
事業の評価	実施方法の妥当性		3	指定管理者への評価・モニタリングにおける調査項目や調査方法について、より質の高いサービスに繋げることができている。											
	実施方法の効率性		3	多様化・複雑化している市民のニーズに的確に対応していくため、指定管理者を評価・モニタリングすることで、その能力を有効に活用し、より柔軟で質の高いサービスを提供することができるよう努めた。											
	達成度（基本施策の実績）		5	アキシマエンス（国際交流教養文化棟）入館者数 289,004人 → 432,742人（49.7%増）											
	DXへの取組		予定なし				AI・RPA導入の可能性		該当事務なし						
	個別評価	合計点	今後の方向性		(前年度 現状を維持) → E 現状を維持										
	 達成度（基本施策の実績）		総合評価		アキシマエンスが開設されて5年が経過し、市民のアキシマエンスへの認知度も深まり、入館者数が増加するという成果を上げることができた。指定管理者へ評価・モニタリング及び必要に応じて助言等を実施することにより、事業の推進に寄与することができた。										

令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		生涯学習推進事業								事業開廃年度		継続			
基本データ	予算科目	款	10	項	04	目	01	細目	005	細々目	01	部	生涯学習部	課長	泉井桃子
		款名	教育費								課	社会教育課	担当	秋山 勲	
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-⑤ 生涯を通じた学習活動の推進 生涯学習講座など活動の充実を図り、参加者の学習意欲を広げます								係	社会教育係	電話	内線 2254		
	根拠法令等									個別計画		昭島市教育振興基本計画（令和4年度～令和8年度）			
	SDG's17の目標	4 質の高い教育をみんなに								法令による事業実施義務		☐ 義務（ ☐ 市上乗せあり） ☒ 任意（ ☐ 都補助等あり）			
事業の概要	事業概要	対象				目的									
	実施内容	市民 “誰一人取り残さない”を基本にだれもが、いつでも、どこでも気軽に学習し、家庭や地域の学習力を高めるための多様な学習活動が促進されるよう市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習を推進する。 ○生涯学習サポーターの養成講座 4回延べ47名 ○文化教養講座 2回延べ47名 ○中高年のためのパソコン講習会 3回延べ45名 ○ゼロから始めるスマートフォン教室 14回延べ90名 ○昭島生涯学習サポーターの会まなぶん共催事業 5事業延べ221名													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算		R7当初予算		R7決算		R8当初予算		備考＜特財名称等＞			
	直接事業費		千円	1,118		818		1,473		748		【その他特定財源】 ・各種印刷物等頒布代金 ・各種講習会受講料			
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円	381		387		329		337					
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	64		129		530		376					
		一般財源	千円	673		302		614		35					
	一般職員人件費		千円	5,104		5,200		5,200		5,434					
	人工数		人	0.60		0.60		0.60		0.60					
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円	350		428		428		439					
	人工数		人	0.10		0.10		0.10		0.10					
	総事業費		千円	6,572		6,446		7,101		6,621					
	基本施策の現状値										(時点)		R5実績	R6実績	R7実績
生涯学習講座などの参加者数 社会教育課主催事業 330人										令和元年度		677	510	450	
事業の評価	実施方法の妥当性		3		生涯学習サポーター養成講座の受講生が設立した「昭島市生涯学習サポーターの会まなぶん」のメンバーと連携し事業を実施し、一方でデジタルデバйдといった課題にも目を向け、その解消に向けた事業を行うなど「誰一人取り残さない」を基本とした生涯学習の推進を図ることが出来ている。										
	実施方法の効率性		3		あきしまカルタの有償頒布を開始したところ当初の予定数量を上回る数を有償頒布することができサービス量は増加した。一方で増刷を行ったため当初予算で計上の無かった予算を予算措置し、総事業費が前年度と比べ増加した。また、社会教育課主催事業は、前年度比では参加者数が減少しているが、令和元年度と比較すると増加するなど総事業費とサービス量を総合的に判断した。										
	達成度（基本施策の実績）		5		基本施策の現状値と比べ令和7年度実績は10%以上増加していることから5点としたが、前年度比では参加者数が減少をしている。事業回数を見直している影響もあると思われるが、そうした中で内容を充実させ、また十分な周知を行いより多くの参加者数を確保していきたい。										
	DXへの取組		予定なし				AI・RPA導入の可能性		該当事務なし						
	個別評価	合計点	今後の方向性		（前年度 現状を維持 ）→ E 現状を維持										
	11														
実施方法の妥当性		達成度（基本施策の実績）		総合評価											
		令和7年度は、平成30年に昭島の魅力を知り、発信しようと「昭島生涯学習サポーターの会まなぶん」協力のもと作成を始めた「あきしまカルタ」は当初の予定数量を上回る数を有償頒布することができ、大きな成果をあげた。実施方法の妥当性や効率性は3点という評価とし、達成度（基本施策の実績）は5点という評価をした。基本施策の現状値と比べた場合、令和7年度実績は10%以上増加してはいるが、前年度比では参加者数が減少している状態が続いている。限られた予算や時間の中で、工夫をしながら内容を充実させ、また十分な周知を行いより多くの参加者数を確保していくことが大切である。「昭島生涯学習サポーターの会まなぶん」との連携をより深めることはもちろん「誰一人取り残さない」を基本とした生涯学習の推進を図ることを第一に考え、ニーズを適切に把握し事業に反映していきたい。													

令和8年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和7年度実施事業）

事務事業名		学級・講座等事業										事業開廃年度		継続	
基本データ	予算科目	款	10	項	04	目	07	細目	004	細々目	01	部	生涯学習部	課長	平沢 智子
		款名	教育費									課	市民会館・公民館	担当	森山 陽子
	総合基本計画の体系	4文化芸術、スポーツの振興を図るまち 4-⑤ 生涯を通じた学習活動の推進 生涯学習講座など活動の充実を図り、参加者の学習意欲を広げます										係	事業	電話	544-1407
	根拠法令等	社会教育法 市公民館条例 同条例施行規則										法令による事業実施義務		☒ 義務(☐ 市上乗せあり) ☐ 任意(☐ 都補助等あり)	
	SDG's17の目標	 4 質の高い教育をみんなに													
事業の概要	事業概要	対象					目的								
	実施内容	市内在住・在学・在勤の市民及び他市の市民 市民の実生活に即する生活課題、学術、芸術・文化に関する各種の講座事業等を通し、生活課題の解決や、趣味、教養の向上、健康の増進を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。 ○市民講座11事業39回 ○市民大学3事業31回 ○地域公民館事業4事業8回 ○交流鑑賞発表のつどい2事業3回（市民文化祭は除く）○自主企画事業3事業16回 ○障害者青年学級1事業21回 ○研修・講習事業1事業1回 ○利用者懇談事業1事業1回 ○共催事業1事業1回													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R6決算	R7当初予算	R7決算	R8当初予算	備考＜特財名称等＞							
	直接事業費		千円	2,676	3,798	2,669	3,947	【その他特定財源】 ・各種講習会等負担金							
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円	753	1,054	849	1,408								
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	148	246	224	230								
		一般財源	千円	1,775	2,498	1,596	2,309								
	一般職員人件費		千円	34,024	26,001	26,001	27,168								
		人工数	人	4.00	3.00	3.00	3.00								
	再任用職員人件費		千円		5,660	5,660	6,178								
		人工数	人		1.00	1.00	1.00								
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
		人工数	人												
	総事業費		千円	36,700	29,799	28,670	31,115								
	基本施策の現状値							(時点)	R5実績	R6実績	R7実績				
市民会館・公民館主催事業 1,936人							令和元年度	1,993人	2,204人	2,488人					
事業の評価	実施方法の妥当性		3	講座のPRに市公式LINEや公民館Xなどを活用し、一部の講座では申込方法に2次元コードを取り入れた。公民館主催事業の参加者数は増加しており、実施方法は妥当であると考える。											
	実施方法の効率性		3	事業費に大きな増加がない中で、主催事業となる講座では様々なテーマで講師に来ていただくなど内容を工夫することで、参加者数は増加傾向にある。											
	達成度（基本施策の実績）		5	身近な生活課題や地域課題の中でも市民の関心の高いテーマを取り上げ、幅広い分野の内容で事業を開催しており、参加者数は増加している。											
	DXへの取組		予定なし				AI・RPA導入の可能性		該当事務なし						
	個別評価	合計点 11	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
		総合評価	公民館主催事業の参加者数は増加傾向にあり、多様な講座を実施することで市民の教養の向上及び生活文化の振興等に寄与することができた。 事業の参加者については世代間や一部の講座で偏りがあることが課題となっており、市民のニーズを的確にとらえることや誰もが参加しやすい開催方法などを検討していく。												